

団体名：NPO法人日本ボリビア人協会



ボリビアの正式名称は、

ボリビア多民族国 Plurinational State of Bolivia

文化や価値観の多様性を尊重し、人々の融和をはかります。

－活動の目的

日本ボリビア人協会は、日本とボリビアの文化のちがいを超えて、日本に暮らすボリビア人がネットワークをつくり、日本社会に順応しながら快適な生活を送れるように、さまざまな活動をしています。

－設立の背景

1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災では、関西在住の多くのボリビア人も被災しました。そして9月5日、大阪市内のカトリック協会に50名程のボリビア人が集まり、在日ボリビア人が抱えるさまざまな生活課題の相談に対応するための自助組織として ARBK（関西ボリビア人協会）を設立しました。活動拠点を津市に移し、2010年4月 ARBJ（日本ボリビア人協会）に改称、2012年1月 NPO 法人認証。

－主な活動

在日ボリビア人に対して、日本での日常生活に必要な情報の提供や相談対応、通訳・翻訳によるコミュニケーション支援、日本語教室・スペイン語教室の開催、また日本の方々にボリビアの文化等を知っていただくための交流イベント等を行っています。

<都道府県別在日ボリビア人数>

1	愛知	1,052
2	三重	882
3	神奈川県	758
4	群馬	436
5	栃木	358
6	静岡	298
7	滋賀	247
8	千葉	165
9	埼玉	162
10	長野	154
	その他	821

総数

5,333 人

(2014 年末)



NPO法人日本ボリビア人協会

〒514-0027 三重県津市大門 7-15

津センターパレス 3F 津市市民活動センター内

[E-mail] arbjyamada5@gmail.com

「生活者としての外国人」のための日本語教育通信講座モデル事業 ～スペイン語版～
＜ F A Q ＞

Q 1. 外国人コミュニティとして、日本語教育を始めたきっかけは？

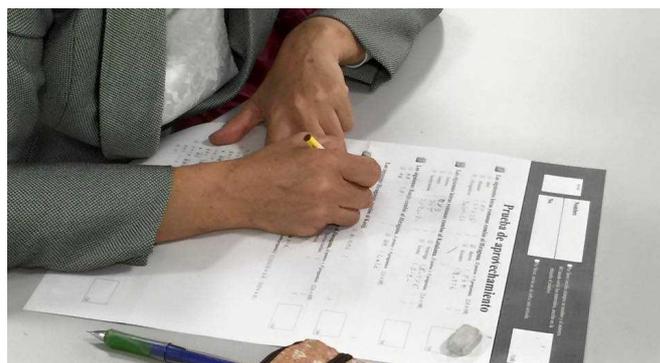
A 1. 日本に10年以上暮らしていても、ひらがな・カタカナの読み書きもできない仲間が少なくないし、毎年新たに来日する人も少なからずいる。日本語力が不十分な彼・彼女らは、工場での非正規労働以外に選択肢がなく、不安定な生活を余儀なくされている。一方で、日本で生まれ育った子どもたちは学齢期になると日本語が中心となり、親子の間にコミュニケーションの齟齬(そご)や、アイデンティティの“揺れ”を引き起こしている。そうした解決の一つとして、これまでは子どもたちへの母文化継承に取り組んできたが、日本人スタッフの加入と同時に、親世代への日本語教育にも着手することとした。

Q 2. なぜ、「通信講座」なのか？

A 2. 既存の日本語教室に通えない・通わないのにはいくつかの理由があるが、最大の理由は時間が合わないことだった。そこで、2012, 2013年度は、彼らの要望に応じて毎週火・木曜日の19:00～21:00に日本語教室を開催した。しかし、それでも週単位で夜勤・昼勤が変わったり、子どもを預けることができず継続参加ができない人が少なからずいた。そこで、学習時間も場所もそのときどきで選択でき、自分のペースで学習ができる「通信講座」の実施を検討しはじめた。

Q 3. どのようにして、講座開催に至ったのか？

A 3. イメージは、通信講座として有名な「進研ゼミ」。その日本語教育版で、学習内容は「生活者としての外国人」のための日本語。そのノウハウがなく困っていたところ、縁あって「進研ゼミ」を行うベネッセグループの子会社であり、独自に通信講座を実施している株式会社ラーズとつながり、事業理念に共感をしていただいたところで、教材開発と運営のノウハウについて協力を得ることができ、実現に至った。



Q 4. どのような講座か？

A 4. コースは半年間で、入門と初級の2コース。毎月15日に自宅に教材が送られてくる。テキストを勉強し、同封の「提出課題（＝小テスト）」に答えて翌月10日までに事務局に返送。日本語教師（有資格者）が採点し、コメントを付け次号と合わせて送付。2月に1回、場所を借りてスクーリングを実施。日本語教師が理解度確認を行ったり、普段はできない会話練習をしたり、受講者の質問に答えたりする。初回にプレースメントテストを、最終回にアチーブメントテストを実施し、学習到達度を測る。

Q 5. だれが、どのように運営しているのか？

A 5. 主なスタッフは5人。事業全体コーディネーター兼教材作成者1名（日本人）、教室の運営補助者兼教材作成者兼通訳1名（ボリビア人）、教材翻訳者1名（ボリビア人）。「提出課題」の添削とスクーリングは、外部講師に依頼。2015年度は2地域で開催しているため、さらに6名の現地協力者（運営補助者、通訳・翻訳、日本語教師）を得て実施。さらに、行政の協力も得て、毎回の郵送物にマイナンバー制度の周知等各種広報物を封入している。

Q 6. 「提出課題」の提出率や、スクーリングの出席率、講座の継続率は？

A 6. 提出課題は、期限（毎月10日）までに出す人は受講者全体（定員20名）の1/3程度。遅れて出す人を含めると4/5程度。遅れた人は翌々月の号に同封する。スクーリングの出席率は1/2強。そもそも、遠方だったり移動手段がない人などが対象なので、あまり強く出席を求めているはない。また、イベントや日頃の付き合いの中で会うこともあるので、疑問があればそこでも聞くようにしている。講座の継続率は、今のところ100%で、コース途中でやめた人はいない。



Q 7. 通信講座だけで、日本語は上達するのか？

A 7. 講座終了時にアチーブメントテスト（到達度評価）を行った結果、全員が講座開始時のプレースメントテスト（レベル判定試験）に比べ、大幅に点数が上がった。日本で暮らしている外国人は、日常生活のさまざまな場面で日本語を見聞きし、いくらかでも日本語でコミュニケーションをとっているため、「通信講座だけ」になることはない。足りないのは、正しい意味理解と筆記のサポート。通信講座ではそれを補っている。

Q 8. なぜ今時、紙媒体なのか？デジタル教材やビデオチャットなどは使わないのか？

A 8. 対象とする受講者にとって、これまでの学習経験の中で、もっとも経験があり慣れているのが紙媒体での学習。デジタル世代は、もう一世代下になる。また、デジタル教材にするにはデバイスとなるタブレットの普及率は低く、スマートフォンでは画面が小さすぎて使いづらい。ビデオチャットは、特に地方では通信速度が十分でない場合が多く、wi-fi 環境下になければ通信費も負担になり、また長時間パソコンの前に座っているのが難しい人も多いため選択しなかった。

Q 9. 今後の展開予定は？

A 9. 現行のプログラム・教材について、受講者の声を聞きながら改善を加えていく。来年度は、受講者定員を増やし、どの程度の人数まで対応できるかを試したい。また、教材については動画を利用したものも開発したい。実施地域については希望に応じて検討するが、対応言語は団体の趣旨（在日スペイン語圏の外国人への生活支援）に沿って行う。

Q 10. 当地でも実施を検討したいが、相談にのってもらえるか？

A 10. 有償になるが、教材開発、講座の運営ノウハウ等、可能な範囲でニーズに応じる。日本語を学びたいのに学ぶ環境に恵まれない人が一人でも減ることを目指したい。とりわけ、外国人数が少なかったり、散在地域のため教室開設が困難（一定程度の学習者数が見込めない）だという地域や、日本語ボランティアの人数確保が困難という地域には有効な手段の一つであると思うので、ぜひご相談いただきたい。

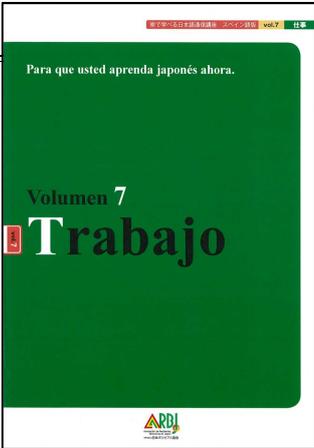


教材の概要【入門コース】

タイトル	通信講座「家で学べる生活日本語～スペイン語版～」
概要 コンセプト	当団体では、既存の日本語教室に通いにくい方々を対象に、新たな日本語学習機会の提供に努めています。2012、2013年度には、就業後に通える夜間の日本語教室（火・木）を開催しました。その過程で、夜勤の労働者や子育て中の方々から日本語を勉強したいという声が寄せられ、自宅で好きな時間に勉強できる「通信講座」にチャレンジすることにしました。
対象者	三重県・愛知県在住のスペイン語圏の外国人
目標	文字（ひらがな・カタカナ・簡単な漢字）の読み書きができ、日常会話に必要な基本的な表現や語彙、日本の文化習慣等を習得する。
言語	スペイン語
構成	<p>第1号 ひらがな、あいさつ</p> <p>第2号 カタカナ、日付、時間、値段</p> <p>第3号 買い物時の語彙・表現</p> <p>第4号 娯楽施設の語彙・表現、日本の祝祭日・年中行事</p> <p>第5号 病院・薬局での語彙・表現、医療通訳・多言語問診票</p> <p>第6号 緊急時・災害時の語彙・表現、避難準備情報、防災メール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな表（1号）、カタカナ表（2号） ・プレースメントテスト、アチーブメントテスト ・提出用課題（各号）
学習の 流れ	毎月15日に、受講者の自宅にテキストと提出課題が届きます。提出課題は翌月10日までに郵送し、添削されたものが次号のテキストに同封され届きます。6ヶ月のコース期間中、3回のスクーリング（任意参加）があり、プロの日本語教師と一緒に、復習や会話練習、質疑応答をします。コース開始時と終了後にテストを行い、学習の成果をはかります。
提供元 URL	http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha/h26_nihongo_program_b/index.html
受講料	1コース 6,000円（税込） *2014年度は5,000円（税込）で実施



教材の概要【初級コース】

タイトル	通信講座「家で学べる生活日本語～スペイン語版～」	
概要 コンセプト	昨年度実施した入門コースの成果と課題を踏まえ、他地域で改訂版を実施し、成果の普及を図る。同時に、学習テーマを増やしてさらに半年間のコース（初級コース）を開発し、学習ニーズの多様性に答えることとする。	
対象者	三重県・愛知県在住のスペイン語圏の外国人	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本での生活に必要な・有用な日本語および社会知識の習得。 ・通信講座を他地域でも実施し、ノウハウの共有を図る。 	
言語	スペイン語	
構成	<p>第7号 仕事：求人票・給与明細の見方等</p> <p>第8号 旅行：ツアーの申込・キャンセル等</p> <p>第9号 銀行・宅配：ATMの使い方、不在配達対応等</p> <p>第10号 教育・子育て：学校教育制度等</p> <p>第11号 コンピューター：メール送受信、office等</p> <p>第12号 総まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレースメントテスト、アチーブメントテスト ・提出用課題（各号） 	
学習の 流れ	毎月15日に、受講者の自宅にテキストと提出課題が届きます。提出課題は翌月10日までに郵送し、添削されたものが次号のテキストに同封され届きます。6ヶ月のコース期間中、3回のスクーリング（任意参加）があり、地元の日本語ボランティアと一緒に、復習や会話練習、質疑応答をします。コース開始時と終了後にテストを行い、学習の成果をはかります。	
提供元 URL	次年度、文化庁日本語教育コンテンツ共有システム「NEWS」に掲載予定	
受講料	1コース 6,000円(税込)	